

第5回戦略会議レポート 2017/11/6 湯沢町役場



テレビ東京『ガイアの夜明け』にて雪国観光圏の取組が紹介されることになり、11月5日～7日に密着撮影が入りました。放送予定は来年1月23日だそうです。



DMOについて／井口代表理事

来年度以降DMOをどう活用していくか、が重要。観光協会の機能は2つ。・インフォメーション・地域旅行会社(まんまのようなイメージ)それを応援する市町村、DMO、県、国という役割分担があり、観光庁が示すブランド観光地の4つの要件(ブランド価値の提供、ブランド管理など)をまとめたものが資料4。観光協会の皆様には事業者への意識啓発や共有を担っていただきたい。事業者と連携し、商品を作ったりお客様の声をフィードバックするという役割を担ってほしい。

雪国観光圏はトータルでDMOとして出来る事を示したのがA4横の資料。誘客につながるストーリー映像の作成から品質改善、滞在プログラムの開発。広報と受入の基盤整備が今までバラバラだったが、観光圏ならトータルで対応できる。地域の人とワークショップを行い、映像を作りながらストーリーに基づいた旅行商品をきちんと作る、手配をする。商品のブラッシュアップ、越後湯沢をハブとした二次交通のインフォメーション提案をきっちりしていく。

【専門家によるアドバイス、第三者による認証】

- ・旅行商品造成・映像制作
- ・インバウンド宿泊客誘致(サクラクオリティ)
- ・ガストロノミー
- 雪国A級グルメ
- ・スーパー民宿
- * 受入施設のレベルアップと分かりやすい商品掲示と販売。



雪国観光圏の理念

『100年後も雪国であるために』

ひとつずつでは埋もれてしまう地域資源を発掘し、つなぎ合わせ、磨き上げることで世界に通用する価値を生み出す。

雪国観光圏のブランドコンセプト

『真白き世界に隠された知恵に出会う』

各WG 29年度の動き

■食のブランドWG 岩佐座長

- ・第5回 魚沼食の学校 報告
- ・雪国A級グルメ



認証事業の再設定と認証の進め方

基本書類審査、年会費、三つ*以上の現地審査料(希望施設)100,000円

- ・雪国ガストロノミーフェア 2月に開催、来年度は10月、再来年はDCに合わせて開催。*事務局をどうするか。

清水先生)DCを抜本的に変えていこうという県に対する提案を我々がリードする。今までのイベントやキャンペーンを見直し食のアピールの在り方を変えていく。

■観光協会連携WG 深津座長

- ・WEBシステムの運用。

雪国観光舎のシステムは、宿泊は即時予約が可能だが滞在プログラムは問合せベースで即時予約が出来ずにタイムロスが発生するため再度検討。

- ・旅行業登録

旅行業を持っている5エリアは窓口で進め、2市町村(津南・栄村)は検討して会議ではかかっていく。

- ・相互販売契約書

他の観光圏や観光地を参考に。手数料も5～10%を考えている。観光圏では雪旅や、既存の商品もある。

■スノーカントリートレイルWG 久保座長

- ・プレスリリース2018年3月20日に開催。

- ・オープンは2018年7月6・7日で検討。 SNOW COUNTRY TRAIL



■第3回女性コーディネーター研究会(10/30) 細矢

- ・別紙参照:女性が考える女性が喜ぶ滞在プログラムプラン①・プラン②を煮詰めているところ。

ターゲット:私たち働く女子! オヤジ女子。キラキラチェンジ、乙女心を思い出し、ヨロっとイケメンに癒されたい。

雪国A級グルメ・ガストロノミーフェアについてフリートーク

- ・井口)新潟ガストロノミーが2年後に控えている。事前準備が必要ではないか。冬の時期に1週間でもトライアルを行い、次年度秋に開催などできるのでは。
- A級グルメの加盟店をフューチャーしたり、マジ井を紹介することはできないか。
- ・南魚沼市)対応は可能かと思う。本気井は3年目になって認知されているなかで検討を有するものはあるが発信できるという部分では前向きに検討できる。
- 魚沼市観光協会)家族経営の中小が多く、まだ高いという気がしなくもない。観光協会費の1万円も高いという中で、三ツ星以上になるとかなり二の足を踏む。
- ・十日町市)魚沼と同じような状況で、認証は必要と思うが中小規模の負担が大きい。
- ・津南町)参画があり、こういった取り組みの中で知って頂くのも重要かと思う。
- ・井口)事業者の負担を削減し、観光協会や市町村が負担するのは可能か。
- ・湯沢町)予算もあり確約はできないが考えたい。DCでアドバンテージとりたい。
- ・深津)事業内容によるかと思うが、認定をとってどういう風にスキルアップできるかというのが浸透すれば参加が増えてくるのでは。民宿はチャンスで喜ばれるところがたくさんある。
- ・井口)この事業はわかりやすくお客様に品質を担保する事業なので、検討をしていただくと。
- ・岩佐)飲食的の加盟店の会費を元銭にしてそれに補助金を上乗せしており大きく活動ができない。会費以外のベース・会費・補助金のような3段階重ねができればいいが、そういった仕組みができると一気に加速するのでは。
- ・井口)この事業なくすのはもったいないので、事業者が負担し自治体が応援していくのが良いかと思う。
- ・魚沼市観光協会)推進協に話はしてあるか。H30年度予算組を始める頃なので、行政はどの位承知しているのか。
- ・井口)現在WGで出た話なので推進協での統一見解の議論はこれから。町としてのスタンスの補助率が違うのは当然。それぞれの市町村での判断にゆだねたい。大きく変えたのは認証を3段階にわけ、すそ野を広くするが対外的に評価されたものは観光圏も応援していく。プロ目線での指導やお客様の評価を組み合わせた認証制度。



各プロジェクトの進捗状況 その他 奥田／井口

- サクラクオリティ 28施設は順次調査中。11月中には終了予定。今後第1陣の調査が終わっているので第2陣に対してもエリアごとに地ならしをしていただき説明会等を順次実施していきたい。
- スーパー民宿支援事業 国内外から注目される事業者を15軒作り出す。現在30施設に声をかけ各地でネットワークを作っている。各観光協会からの推薦をお願いします。
- シンポジウム
 - ・食が街を変える 講演活動
 - ・雪国観光圏地域人材育成研修 ・地域を広げてみて学ぶ *観光圏事業の周知をお願いします。



UDJ 観光圏協議会／フジノ氏

- 13観光圏の旅行商品をうる窓口・問合せ等は4cycleで行う。すでに200以上の旅行AGTにアプローチをしている。反応を見ていると、ゴールデンルート以外のまだ知らない日本の旅がしたいという要望を持っている人が多い。学生の旅先を探していたり、北海道でスキーと雪遊びをさせたいなどのオファーがある。中国の富裕層を対象にした健康医療ツーリズムを売って行こうというAGTが1~2週間の滞在でヘルスツーリズムを組めないか、という話もある。アメリカ人旅行ライター&カメラマンカップルが12月に月山に取材に行くついでに雪国にも立ち寄り、ガストロノミーを体験していただきながら記事にしてもらう。突発的に取材要望がはいることがあり観光圏で予算があると対応できる。

清水先生から

- 日本版DMOである雪国観光圏が何をやっているんだというのが今の説明。7市町村の単なる集客だけではなく地域を元気にして豊かにしていく仕組みまでつないでいく、全体のプロデュースをしていくのがDMOであることをご理解ください。お客様に滞在・体験していただきリピートとしていただきながら農業・商業を豊かにしていくのか。本来各市町村ごとにやらなければならない。DMOというのは、地域・地域連携・広域DMOがあり、観光地域づくりに取り組んでいる。マンパワーやノウハウが難しい場合、観光圏・日本版DMOという組織にゆだねていく。

※次回戦略会議は、1月15日(月)13時30分～湯沢町役場で開催。
※レポート内敬称略。

連絡先：一般社団法人雪国観光圏事務局
新潟県南魚沼郡湯沢町大字湯沢2431-1
TEL:025-785-5353 FAX:025-785-6767